

＜古賀市地域公共交通計画の進捗状況（令和７年度）＞

資料4-1

（計画38、39ページ）

目標					目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
評価指標			従前値 (R5年度)	目標値 (R10年度)	前年値 (R6年度)				
①ー１	市内路線の収支率	西鉄バス古賀市内線	29.87%	50%	33.49%	・二種免許取得支援補助金	39.46%	R7年4月1日のダイヤ改正で平日25%ほどの減便となり、利用者数は減少傾向。 バス運転士の確保が難しく、バス路線を維持していくことについて、重要課題として認識。移動ニーズを踏まえた運行ルートの効率化を引き続き図る必要がある。	
		コガバス	20.00%	25%	JR古賀線 14.7% 小竹線 2.5%		JR古賀線 14.4% 小竹線 12.0%	小竹線は令和7年1月にJR新宮中央駅まで延伸しており、今後利用者の増加が見込まれるが、人件費や燃料費等の高騰により運行経費が増加した場合、収支率に影響が出る可能性がある。	
①ー２	のるーと古賀の運行収入		122万円	350万円	228万円		222万円	R7年4月1日より平日2台運行から1台運行に変更し、運行経費を削減し、収支率の向上につながった。 のるーとダッシュ移設。（サンコスモ古賀→古賀中央病院） 自動運転のるーと運行による認知度向上につながった。（のるーと利用登録者数の増加）	
①ー３	財政負担額		1.2億円	1.5億円以下	1.5億円		2.0億円	歳入 ●国庫補助金 新しい地方経済生活環境創生交付金（地方創生型）41,069,000円 ●県補助金 ・生活交通確保対策補助金3,128,000円（路線バス運行費）	
②	利用環境の整備割合		20%	100%	28%	令和７年度実績 をもとに算定	40%	スマートバス停（JR古賀駅西口・JR千鳥駅・福岡東医療センター）に加えて、交通案内サイネージ端末を市内５カ所（JR古賀駅自由通路、JRししふ駅待合室、コスモス館、青柳郵便局、米多比郵便局）に設置し、利用者によりわかりやすく正確に情報を提供できた。	
③ー１	市内路線の市民一人当たりの年間平均利用回数		4.29回/年	4.3回/年	4.69回/年		4.37回/年	時刻表の配布。（路線図についてカラーユニバーサルデザインに配慮）	
③ー２	利用促進を図る取組の実施回数		12回/年	10回以上/年	10回/年		6回/年	自動運転バス実証運行説明会とスマホ教室（のるーと登録から予約方法について）を同時開催。（3回/年） イベント開催時にのるーと古賀の周知啓発。（2回/年） 広報誌で公共交通の特集記事の掲載（1回/年） 公共交通の利用促進に向けた取組みを適宜行った。	
④	共創による取組の実施回数		6回/年	7回以上/年	8回/年		15回/年	しこむむ地域で交通連携会議（1回/年） 県・近隣市町との広域連携について協議（1回/年） 小竹地域の地域協議会（1回/年） 地域での出前講座（青柳・舞の里）（2回/年） 企業との公共交通利用についての協議（10回/年以上）	